

◇令和5年／2023年9月号 第106号◇

會



フジサンケイグループ

報

産経国際書会

SANKEI INTERNATIONAL SHO ASSOCIATION



高円宮妃殿下から「第40回記念産経国際書展」高円宮賞を受ける村田白葉副理事長（8月18日、明治記念館）



産経新聞社事業本部
エグゼクティブプロデューサー
産経国際書会会長代行
伊藤 富博

7年間に感謝申し上げます

高橋照弘新理事長のもと、東京都美術館での第40回記念産経国際書展が無事に終了し、地方展も始まるなど高橋新体制が本格的に動き出しました。

私は7月1日付で、産経新聞社事業本部エグゼクティブプロデューサーに就任、後任の事業本部長には前編集局長の三笠博志が着任しました。

振り返れば、平成28年から丸7年務めさせていただきましたが、産経国際書会会長代行は続けますので引き続きよろしく願いいたします。

創立35周年を記念して台湾との交流書道展を台北で開催、日本から130人の代表団とともに現地の書家と交流したのは忘れられない思い出となりました。

令和2年からは、新型コロナウイルスに振り回されましたが産経国際書会の火を絶やしてはいけないという一心で、風岡五城前理事長始め幹部の先生方と緊急事態宣言にもかかわらず、東京での審査会、東京都美術館での展覧会と産経は中断しないという信念で突き進みました。今振り返っても厳しい3年間でしたが、毎日、読売の書道展が中止する中、一度も中断しなかった産経は存在感を大いにアピールできたと自負しています。

それから、高円宮妃久子様のご母堂、鳥取二三子様が7月18日にお亡くなりになりました。贈賞式でのお姿が今も目に浮かびます。お悔やみを申し上げます。

結びに皆様のご健勝、ご活躍、そして7年間にわたるご厚情に感謝を申し上げ、挨拶いたします。



産経国際書会
理事長
高橋 照弘

意義深い書展となった第40回記念展

第40回記念産経国際書展は通常展に特別企画を併催し好評裏に終了することができました。皆様のご協力に感謝申し上げます。

本展終了後続いて関西展、東北展と開催され、瀬戸内展、中部展、40回記念四国展、そして来年の大作展と順次進めていきます。

本展特別企画「産経国際書会40年ーそのはじまりと歩みー」では書会を設立牽引した先生の作品を中心にそこに連なる先生の作品が展示され、師と再会し当時を感慨深く思い出されたと思います。系譜は書会の来歴、構成を示し、会員はルーツを知ることができ、書活動への決意を新たにされたことでしょう。

田中鳳柳コレクション「中国 明・清の書画名品展」は明清時代の官僚民間人が日本書道に大きな影響を齎らした書画の放つ気韻、風致に触発され書的精神を刺激されたと思います。

韓国著名作家の招待展示は漢字文化を共有する国です。国には書風があり多様な文字表現があります。表現を広げる機会でありました。

企画展により入場者は大幅に増えました。フジテレビ系ドラマ「ばらかもん」で使用の「楽」が特別展示され、ファンの来場が数字をあげた一因になっています。

展覧会は来場者数が重要です。来場者が無ければ開催する意義はありません。来場者を増やさなければなりません。互いに切磋琢磨研鑽し魅力ある作品を発表することが大事となり、ここに書会発展の鍵があると考えています。

第40回記念 産経国際書展

8月14日(月)～8月20日(日)
東京都美術館

第40回記念産経国際書展は8月14日から8月20日まで、東京都台東区の上野公園にある東京都美術館で開催された。総出品数は6,012点、コロナ禍の始まった3年前にようやく戻り、40回記念展ということで、多くの会員の皆様、社中の先生方のご努力で多数の出品があった。

審査会員、無鑑査会員、会友の3部門で今年1年限りの40回記念賞を設けた。また、専管理事優秀賞、理事優秀賞を各1点、審査会員優秀賞10点を新設し、選出した。こちらは来年からも継続されるので対象の先生方はぜひご挑戦いただきたい。

今年の高円宮賞は村田白葉副理事長、内閣総理大臣賞は岩浅写心常任顧問が受賞。

会場では、「産経国際書会40年ーそのはじまりと歩みー」、「田中鳳柳コレクション 中国明・清の書画名品展」、さらに「韓国書壇代表作家」特別展示、そして高円宮妃殿下から「開」と「尊」の二文字の御題を頂戴し、80歳以上の会員による特別色紙展を開催し、色とりどりの色紙66点が飾られた。

恒例の著名人の書には女優の秋吉久美子さん、ラジオ・パーソナリティの矢野きよ実さんを加えた6人にフジテレビ系ドラマ「ばらかもん」で青年書道家・半田青舟(杉野遥亮)が書いて、ドラマに実際に使った作品「楽」を展示、大いに人気を集めていた。

様々な企画のおかげで会場は連日多くの人々でにぎわっていた。(事務局)

【来年度】第41回展

会期 令和6年8月14日(水)から8月21日(水) ※8月19日(月)休館

会場 東京都美術館 ロビー階と1階の第1～第4展示室、2階の第1、第2展示室(計10室)

贈賞式・祝賀会 展覧会会期中に明治記念館で実施予定

※「2024産経ジュニア書道コンクール」も同会期8/14～8/21(8/19休館)で、東京都美術館2階第3、4展示室(計2室)で行います。



開会式：左から坂本香心理事長代行、風岡五城名誉理事長、山下海堂最高顧問、飯塚浩彦会長、高橋照弘理事長、渡邊麗理事長代行

さらに活力あるものへ

実行委員長 高橋照弘



第40回記念産経国際書展審査会は各部門間連携よろしく全ての日程を予定通り終了し、本展へと引き渡すことができました。各係員は書展の意義、審査の重要性をよく理解してそれぞれが任を完うされたことによります。お疲れ様でした。

各部門の人員はベテランが多く進行は不安なく円滑速やかでありました。しかし、この先どれほど現状を持続させることができるのかが懸念される一つであります。人は年ごとに齢を重ねていきます。時間をかけ少しずつ新人を登用しさらに活力あるものへと替えていくことが必要かと。

出品票と作品分野の齟齬が目立っている。誤記入か、制作上の解釈の違いが係を煩わしている。本人記入通りとするか、規定を順守し事務的処理をするか、この点を明確にしておくべきかと思う。かなと現代文、一字書と漢字などにみられた。

現代書部門では三分野合同で一括して審査が行なわれている。審査員のなかには墨象に慣れない方もおられる。この中で審査することは墨象出品者に不利益があることは否めない。とすれば墨象の審査部は必要とされる。墨象出品者の意識を高め活性化を図るうえで考えなければならない急務と考えます。以上来年以降前向きに検討していきたい。



5月30日から6月2日に行われた審査会



8月14日午後1時オープン、賑わう会場



29人の作品を招待展示した韓国書壇



今年の御題は「開」と「尊」特別色紙展



第40回記念展の審査を終えて

審査本部長 村田白葉

「第40回記念展審査会」は5月30日(火)～6月2日(金)の4日間に亘り東京都立産業貿易センター台東館において通常通り開催されました。最終日の2日は、台風による大雨の影響により、東海道新幹線が全面運休となり、宿泊を余儀なくされました。

今回の審査員は漢字、かな、現代書、臨書、篆刻・刻字、U23の各部総勢46名の先生方のご出席を頂きま

した。出品数も増加しており、熱気あふれる審査会となり、40回記念展にふさわしい作品が選出されたものと思っております。6月2日の特別選考委員会は15名の選考委員により厳正に審査され、各賞が決定いたしました。

審査会の先生方、審査事務局、搬出入部の委員の先生方には格別のご協力を頂きまして、審査会が無事終了できました事、ここに厚く御礼申し上げます。



「第40回記念産経国際書展」を終えて

東京部会長 武富明子

8月14日は断続的に降る大雨に見舞われましたが、午後1時にテープカットセレモニーで開幕。溢れんばかりの人、人でした。7日間を通して大変な賑わいでした。ご来場者数はこれ迄で最高だったのではと思います。さて、受付業務は、例年の分厚い図録と記念展の図録3冊をセットにした袋を用意したり、受け渡しの記録や発送作業等で、坐る暇も無い程の忙しさで

した。東京部会の部員並びに会員の方々のご協力のお蔭で無事に終了出来ました。感謝です。第40回記念の特別展示室が落ち着いた雰囲気醸し出して、産経展の品格を高めてくれたのでは…。貴重な展示に感動されて図録を求められた外部の方も多々いらっしゃいました。例年以上の猛暑にもかかわらず会場までお越し下さった全ての皆様にご心から厚く御礼を申し上げます。



コロナ禍の経験を踏まえて

搬出入部長 磯部哲舟

5月30日、都立産業貿易センター台東館で始まった搬入の仕事は、昨年より引き続きコロナ禍での作業ではあるが、前回の経験を踏まえた協力体制によりスムーズに仕分けが進められた。

表具店より続々と搬入された作品は、委員(スタッフ)とアルバイトの共同作業で各部門別に仕分けす

るや、翌日の審査に向けて書類や作品の整理作業に入り、審査部へと引き継がれていきました。

今回、スタッフが一丸となって多くの作業に触れ、あらためて産経国際書展の底力、そして士気の高揚を見た。理事長をはじめ、各先生方や委員の方々、力作を出品したの方々、事務局の方々等、すべてに感謝し、報告記といたします。



特別展示、40回記念展

陳列部長 山本晴城

今年は、第40回記念展で会員皆様の出品増に加えて、「産経国際書会40年展」、「田中鳳柳コレクション展」など特別企画が行われ、約2,700点の作品を東京都美術館の10室に展示しました。そのため、入選作品の展示では、半切作品の上に90cm角の作品を乗せるなど重ねて展示せざるを得ない作品がいくつか出てしまった

点は大いに反省するところでした。

「明・清作品」の展示には風岡五城名誉理事長、金丸鬼山副理事長に展示をご担当いただきました。御礼申しあげます。今回も大きな事故無く展示を終えられたのは展示部と幹部の先生方のおかげです。ありがとうございました。



先生方に感謝

図録部長 青木錦舟

記念すべき第40回本展の図録会議は6月30日の積文会議後、猛暑の最中、7月19、24、27日に全員参加で行われました。24日には前部長の今田先生から電話でメールを頂き、一同更に心を引き締め、仕事と向き合いました。単なる正誤の確認のみならず、レイアウト、濃

淡、多字数の見せ方等、作品の魅力をより感じて頂ける様にと暑さも時も忘れ、力を合わせて下さった先生方には感謝しかありません。

そして、図録部の仕事が円滑に行えたのも、事務局の細やかな配慮と書会幹部の先生方の御支援のお陰です。心より御礼申し上げます。

第40回記念 産経国際書展 贈賞式・祝賀会



飯塚浩彦会長の挨拶



高円宮妃殿下のお言葉



高橋照弘理事長の挨拶



4年ぶりに行われた祝賀会での乾杯

8月18日(金)東京都港区の明治記念館で高円宮妃殿下をお迎えして「第40記念産経国際書展」贈賞式を開催しました。昨年から公募、会友を対象とした第1部、無鑑査会員、審査会員を対象とした第2部構成とし、第1部は237人、第2部は49人と全国からお越しの多くの

受賞者が壇上にて表彰されました。

また、4年ぶりに祝賀会を開催しました。役員、来賓、受賞者合わせて294人が出席し、久しぶりに顔を合わせる先生方も多く、楽しいひとときを過ごされました。

高円宮賞

村田白葉 副理事長

いにしえを手本とする



高円宮賞 古為鑑



喜びの言葉を述べる村田白葉さん

第40回記念展におきまして、栄誉ある「高円宮賞」にご推挙頂き、誠に有難うございました。

贈賞式では、高円宮妃殿下より、私の書活動に対し、温かなお言葉を賜りまして、感激で胸が一杯でございました。賞の選考に当たられました、特別選考委員の先生方をはじめ、関係者の皆様の方強いご支援とご厚情の賜と厚く御礼申し上げます。

また、40年に亘りご指導を頂いております村越龍川先生、書友の皆様のご支援のお陰と深く感謝いたします。

今回の受賞作「古為鑑」は「いにしえを手本とする」の意味があり、この語句を選びました。

篆書で書こうと取り組み、まず甲骨文で書いてみたのですが、思うような作品にならず、金文に変更し試行錯誤の末ようやく出品した作品でした。

この度、思いがけず人生最高の大きな賞を頂き、実感するのは「継続は力なり」です。書道は一朝一夕で身に付くものではありませんから、長い年月をかけて、学んでゆくものと思っております。まだまだ納得のいく作品は生まれず、悩み、苦しみの連続です。今後も古典を学びながら、作品作りに生かしてゆきたいと思っております。

そして、この賞に恥じぬよう、尚一層の研鑽と国際交流にも、できる限り努めて参る所存です。今後益々の書会の発展をご祈念申し上げます。

内閣総理大臣賞

岩浅写心 常任顧問

制作余話



内閣総理大臣賞を受ける岩浅写心さん

紙は舞台、文字は役者、演目は^{いのり}禱、連日の報道でウクライナ人民の被災の様子が写し出される、心が痛む、何とかしなければとは思っている事とは「いのる」事くらいだ。

そこで四十回記念展の題材は「禱」に決めた。舞台の紙は三十年物の紅墨杯の三層三六判、吸い込みよく濃淡どちらの墨色でもソフトにみせるお気に入りの紙だ、役者をどう動かすか山馬から馬毛、羊毛、種々試して^{やんす}羊須の聖一寸五糸の筆にした、愈々布置だな。上下に空間を取りたいのでネ偏を中心より下に稍太く祈る人を想定して置いた、旁は上下長くリズムカルに構えを大きくして先ぐ復興にかかる平安を祈念した心算である。

次は墨色である、私は元からどんなに大作でも、墨は硯で磨る派であるので今回は墨運堂の香象と言う五丁型の墨を墨ボンドで横につなげて広くして縁端で磨って書いた。

いつもは青墨が好きで青墨の作品が多かったのだが、希求するところが世界平和なので



禱

濃墨に磨った墨をうすめて中墨くらいにした。才能ナシの私が年に三作の三六作品を作る。

本展と新春展、そして心芸の選抜展何れも前作とチガッタ作をとしているのでバカな頭の切替が大変だ。それにしても二回の機会が国際書会に依っている、その上今回は栄えある、内閣総理大臣賞、続けてきて良かった、参加して良かった、ありがたい。関係者皆様に心から御礼申し上げる、ありがとうございました。

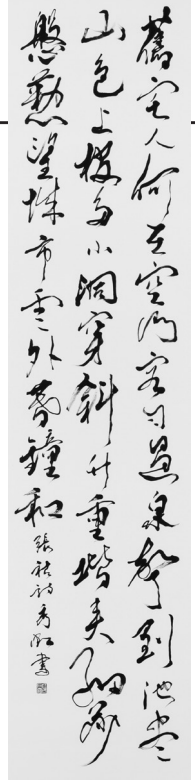
中国大使館文化部賞

江戸秀虹 常務理事

受賞のお礼

この度は身に余る受賞に恐縮しております。一老書人への喝として、甘んじさせて戴きました。推薦下さいました諸先生方に感謝申し上げます。有難うございました。

これからも気力・体力の続く限り書画、篆刻等いろいろ接していこうと思います。「何のために字を書くのか」と云う自己のテーマをベースに書活動が続けていく所存です。これからもよろしく願い申し上げます。



張祐 舊宅人何在...

韓国文化院長賞

木住野栄 参与

人生最高の喜び



新垣秀雄 ひと柱...

今回の作品は太平洋戦争最後の沖縄戦の激戦地摩文仁(ひめゆりの塔もある)で11万人の犠牲者を出し遺骨の発掘が行われているが残る多数の遺骨を早く掘り出して欲しいと願う歌。悲愴な歌で表現方法も難しく苦勞したが

過去を思うと私も戦争で父を失い、家を焼かれ母の実家へ疎開し高校まで過した。そこで、佐久間玉溪、國井誠海両先生のご教示を受け現在まで書き続けられた。産経展第一回展から四十回展まで出品出来たのは感謝である。

受賞者 喜びの声 (敬称略)

ペルー共和国大使館友好賞 本橋春景



大変立派な賞を賜り有難うございます。これも偏に山下海堂先生はじめ諸先生方のお蔭と心より御礼申し上げます。これからも夢中になれる事がある幸せに感謝し精進して参ります。

理事優秀賞 沈 強



受賞は光栄の至りです。産経国際書会の発展と共に来日36年の書人生を歩んで来られました喜びは感無量です。書会の先生方、小生の芸術活動を支えて下さった皆様に感謝申し上げます。

産経国際書会会長賞 勅使川原里雪



この度の受賞は、小名雪王名誉会長、小名雪揺先生の厳しくも温かなご指導のお蔭と心より御礼申し上げます。この賞を励みに、古典の臨書を絶やさず心豊かに時間を重ねたいと思います。

産経国際書会理事長賞 李若娜



この度は理事長賞を頂き、身に余る光栄と感じております。指導をして下さる望月暁云先生をはじめ諸先生方、書友の皆様は心より感謝致しております。今後とも、より一層精進して参ります。

第40回記念賞(審査会員) 田村廸子



この度は思い掛けない受賞に浴し感慨深い思いです。故・岡蚩風先生の継続は力なりの言葉を糧に歩んだ三十年余り、この歳でこの様な形となりました事、嬉しく思います。

審査会員優秀賞 大木翠晃



賞を賜り御礼申し上げます。王鐸から行の流れと字形の変化を、王羲之より骨のある字形、品格の良さを求めてきました。古典の香りが感じられる作品作りを心掛けたいと思います。

モンゴル国大使館賞 上村陽香



溪風師匠を失って二十三年。師の理念に添いながら大作に挑戦しては参りましたが、この度思いもかけぬお知らせを受け、老に鞭打たれる思いでございます。厚く御礼申し上げます。

専管理事優秀賞 小宮求茜



伝統仮名と墨象を融合というスタイルの作品で、思いがけず「専管理事優秀賞」を頂きました。身に余ることで嬉しくお礼申し上げます。励みとしてこれからも精進してまいります。

産経国際書会会長賞 堀江龍舟



日頃より様々な角度から書の魅力、奥深さをご教示くださる風岡五城先生、また書会の先生方に心から感謝申し上げます。今回の受賞を新たな挑戦の契機にしたいと思います。

産経国際書会会長賞 本山鈴翠



名誉ある賞を頂戴し、胸が一杯です。日本書蒼院理事長谷蒼涯先生、副理事長宗像翠龍先生、諸先生方のお陰様と感謝致します。受賞を励みに作品創作に一層精進して参ります。

国際大賞 高橋嘉代



関係者各位に心から御礼申し上げます。父と私の干支である「羊」を選び、師・竹澤玉鈴先生に薦められこの作品に決めました。今後も会の方々と楽しんで書を学んで参りたいと思います。

審査会員優秀賞 井上千秀



「審査会員優秀賞」をいただきました大変光栄に存じます。これも偏に御指導いただきました正川子葉先生のお蔭と感謝しております。今後も一歩一歩前進していければと思っております。

審査会員優秀賞 小野寺聖乗



甲骨、金文に魅せられ三十余年、書く度に異なる表情と出会い、その魅力や奥深さを実感しております。今後も精進をする所存でございます。ありがとうございました。

審査会員優秀賞 鈴木晨風



受賞の報に、驚きと喜びの気持ちでいっぱいです。帛書に出合い三年、勝田晃拓会長のご指導を受け、続けてまいりました。感謝と共に、この賞に恥じない様、精進していきたいと思っております。ありがとうございました。

審査会員優秀賞 岡田崇花



この度の受賞、大変嬉しく、また重く受け止めております。これもひとえに日本書蒼院理事長谷蒼涯先生のおかげであり、書友や生徒たちに支えられ現在があると改めて身に染みた次第です。これを励みに人生の楽しみとして精進していきたいと思っております。

審査会員優秀賞 植木由樹子



優秀賞を頂き感謝と喜びに満ちています。いつも見守ってくださっている竹澤丹一先生の25回忌、世木田江山先生の3回忌にあたる年に受賞できた巡り合わせを大切に思い、これからも自分らしく表現したいと思っております。

審査会員優秀賞 倉島美瑠



受賞に際し、20年以上師事した故松本美娜先生に心より感謝申し上げます。平穏な日常を揺るがす出来事があり、今野美晃先生の勧めで、私の心情を「亂」に表しました。負けるものかと全身全霊で書きました。

文部科学大臣賞 晋 鷗



行草体で杜甫《旅夜書私》の詩を書きました。昨年秋に来日30年を迎え31年目の第一歩を記念すべき第40回記念展と、奇しくも日中友好条約締結45年の年に受賞し、尚一層日中友好の一翼を、書道をとおして微力ながら継続して参ります。

外務大臣賞 島田昌広



この度は、外務大臣賞を戴き身に余る光栄です。ご指導下さいました鈴木蒼先生、書作に集中できる環境を作ってくれる家族、職場の皆様のご理解に感謝しています。仮名の魅力を表現できる様、日々精進してまいります。

審査会員優秀賞 八木一華



この度は、身に余る賞を賜り誠にありがとうございました。感謝の気持ちでいっぱいです。師、勝田晃拓先生の、のびやか、かつ正鵠を射るご指導の下、集中して仕上げることができました。今後も作品の向上に努めて参ります。

審査会員優秀賞 石原圭芳



この度は、第40回産経国際書展にて輝かしい賞を頂戴し誠に光栄に思います。これも偏に恩師の原田圭泉先生の時には厳しく時には温かくご指導頂いたお蔭と感謝しております。初心を忘れることなく、これからも精進して参ります。

審査会員優秀賞 川村圭子



この度は、審査会員優秀賞を頂きありがとうございました。白い紙に書く時の緊張感と集中力は、苦しくも楽しい時間です。竹澤玉鈴先生の優しく温かい御指導のお陰と感謝しております。今後も今迄以上精進してまいります。

伊達政宗賞 伊勢枝香



東日本大震災の荒狂った海の恐ろしさを払拭することはできないが、穏やかに豊かな海が永遠に続くことを念じて筆を執りました。栄誉ある賞を賜り、大変有難く身の引き締まる思いです。更に精進を重ねて参ります。

文部科学大臣賞 今野榮園



この度は、栄えある文部科学大臣賞を賜り、この上ない喜びでいっぱいです。心身共に健康で書作活動ができるようにと「健」に託し筆を運びました。受賞を胸に更に精進してまいります。ありがとうございました。

産経大賞 藤島果那



この度は栄誉ある賞をいただき、驚きと嬉しさで胸がいっぱいです。日頃よりご指導下さる鈴木曉昇先生をはじめ、諸先生方には大変感謝しております。今後も書を楽しみながら精進してまいります。

第40回記念 産経国際書展受賞者(敬称略)

高円宮賞 漢字部門 村田 白葉 (静岡県)

内閣総理大臣賞 現代書部門 岩 浅 写 心 (長野県)

中国大使館文化部賞 漢字部門 江戸 秀虹 (神奈川県)

韓国文化院長賞 現代書部門 木住野 栄 (東京都)

モンゴル国大使館賞 かな部門 上村 陽香 (広島県)

パルー共和国大使館友好賞 現代書部門 本橋 春景 (埼玉県)

専管理事優秀賞 かな部門 小宮 求茜 (東京都)

理事優秀賞 篆刻刻字部門 沈 強 (東京都)

産経国際書会会長賞 漢字部門 堀江 龍舟 (愛知県)
かな部門 勅使川原 里雪 (埼玉県)
現代書部門 本山 鈴翠 (東京都)

産経国際書会理事長賞 漢字部門 李 若 娜 (千葉県)

第40回記念賞(審査員) 現代書部門 田村 廸子 (大阪府)

国際大賞 現代書部門 高橋 嘉代 (埼玉県)

審査員優秀賞
漢字部門 井上 千秀 (奈良県)
漢字部門 大木 翠晃 (静岡県)
漢字部門 小野寺 聖乗 (東京都)
漢字部門 鈴木 晨風 (静岡県)
漢字部門 八木 一華 (静岡県)

伊達政宗賞 現代書部門 伊勢 枝香 (宮城県)

かな部門 岡田 崇花 (千葉県)
現代書部門 石原 圭芳 (東京都)
現代書部門 植木 由樹子 (広島県)
現代書部門 川村 圭子 (埼玉県)
現代書部門 倉島 美瑠 (東京都)

文部科学大臣賞

〈漢字部門〉 晋鷗
〈現代書部門〉 今野 榮園

外務大臣賞

〈かな部門〉 島田 昌広

産経大賞

〈漢字部門〉 藤島 果那

第40回記念賞(無鑑査会員)

〈現代書部門〉 酒井 雅代

産経準大賞

〈漢字部門〉 石原 志仙
上田尾 桜香
只野 翠苑
〈かな部門〉 上田 秀曠

〈現代書部門〉 高市 翠柳
肥後 彰宴
〈臨書部門〉 常松 昇儷

無鑑査会員特別奨励賞

〈漢字部門〉 猪浦 明翠
岩倉 瑞季
尾末 静翠
園田 桃香
田中 柳憚
橋爪 玉雪
水田 翔葉
石川 水碧
大友 博子
小久保 撞文
林 帛甫
東浦 曉舜

〈現代書部門〉 矢嶋 粹瑠
〈臨書部門〉 戸所 青苑

太田道灌やまぶき賞

〈かな部門〉 鈴木 瑞
代島 翠葉
〈現代書部門〉 馬場 睦子

太宰府天満宮賞

〈漢字部門〉 毛利 恵華

無鑑査会員奨励賞

〈漢字部門〉 中川 嶺泉
〈かな部門〉 井口 邦子
〈現代書部門〉 藤井 藹子
〈臨書部門〉 河野 秀喜
原 黄馨

第40回記念賞(会友)

〈現代書部門〉 松本 昇薇

会友特別賞

〈漢字部門〉 栗原 蓮翠 佐藤 暁光 武石 扇英 原口 玉燕 廣瀬 麗香
〈かな部門〉 黒澤 姫扇
〈現代書部門〉 市川 鈴雪 小笠原 玉玲 小峰 雪韻 坂元 雅子 千葉 昌子
〈臨書部門〉 植西 美侑

会友賞

〈漢字部門〉 安藤 佳舟 一条 侑琴 市原 澄子 伊藤 蒼苑 伊藤 芳翠 今村 華綏
上垣 旭央 大内 城翠 大須賀 郷桜 大谷 暁雪 河村 春璃 木本 慈眼
小西 桜吟 小林 佳坡 古宮 瑤青 金剛 琢蒼 坂口 静湖 坂本 蒼榮
城野 龍宗 田中 玉鈴 土屋 荷香 鶴淵 雅泉 長瀬 梅昇 新谷 翠泉
西村 美硯 波多野 千瑛 平川 統雲 藤田 志春 古子 芳丘 牧野 翠花
松本 昇璃 三井 里枝子 安田 琳華
〈かな部門〉 上村 章紀 大山 ゆかり 岡田 知則 菊島 克月 後藤 正子 鈴木 久江
鈴木 萌園 西野 文 松井 秋岳 森川 桂子
〈現代書部門〉 石田 七帆 伊藤 雅子 小笠原 玉徑 小高 美泉 加藤 洋子 北野 寛子
田頭 育子 田中 瑛恵 田中 香風 中村 双琴 橋本 粹蓮 星山 碧川
茂木 綵霞 諸星 睦 山内 恵子 山内 玉泉
〈臨書部門〉 我那覇 喜琉 合屋 佳凰 白川 鼎心 鳥居 貴子 渡辺 昌弥

会友奨励賞

〈漢字部門〉 勝田 幸子 宮崎 玄煌
〈かな部門〉 清古 蘭美
〈現代書部門〉 山根 まどか
〈臨書部門〉 高橋 里奈

一般公募・特別賞

東京都知事賞

〈漢字部門〉 安静 圓成

愛知県知事賞

〈漢字部門〉 深澤 慶川

中国大使館文化部特別賞

〈漢字部門〉 胡 考

産経新聞社賞

〈漢字部門〉 佐藤 明洲 潘 桂芳
〈かな部門〉 若宮 舞奏
〈現代書部門〉 手塚 純子 中嶋 龍樹
〈臨書部門〉 高原 栄香

フジテレビジョン賞

〈漢字部門〉 清水 玲飛
〈かな部門〉 江場 由紀子
〈現代書部門〉 篠原 一浩

ニッポン放送賞

〈漢字部門〉 須永 暁聖
〈現代書部門〉 佐藤 徳子
〈臨書部門〉 鶴井 昭玉

国際賞

〈現代書部門〉 松原 謙斗

U23大賞

〈臨書部門〉 玉木 佳苑

U23奨励賞

〈かな部門〉 鈴木 啓心
〈現代書部門〉 永関 杏南

第40回記念 産経国際書展 特別企画

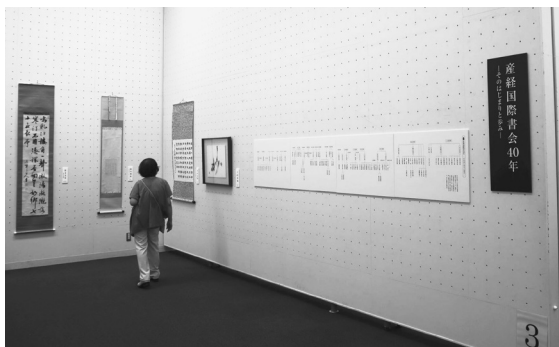
「産経国際書会40年－そのはじまりと歩み－」

産経国際書会は、昭和59年、小川瓦木、國井誠海、十鳥靈石、林錦洞、山田松鶴の5人の先生方を中心に「いいものはいいんだ」とするクリーンな審査と書芸術を通じて国際友好をはかるという大きな2大目標を掲げた新しい書道団体として出発しました。今展では産経国際書会を創設し、その歴史を築いてきた書家たちの珠玉の作品、そして、その先達が私淑し、手本とした先人たちの作品を各社中、個人などからお借りし、一堂に展観することとなりました。

見ごたえのある作品群に来館者は熱心に見入っていました。

展示作家

小川瓦木、山田松鶴、十鳥靈石、國井誠海、林錦洞、深澤青蓼、佐々木泰南、柴田侑堂、田村桃溪、小川南流、遠藤乾鳳、長島南龍、松田海軒、佐々木月花、本多道子、納谷古石、勝田景泉、北島瑞峰、佐野丹丘、吉田玉雲、岩田紅洋、山本宏城、島村谿堂、田中鳳柳、松本美娜、小野之鷲、酒井子遠、伊藤欣石、林龍契、岩間清泉、鈴木翠軒、田中真洲、松本芳翠、上田桑鳩、林祖洞、手島右卿、酒井康堂、阿部翠竹、広津雲仙、赤羽雲庭、南不乘（順不同）



「田中鳳柳コレクション 中国 明・清の書画名品展」

令和3年に亡くなった田中鳳柳産経国際書会最高顧問は、自らの書の勉強のために多くの古典墨蹟を蒐集していました。

今回は多くの関係者のご努力で、田中鳳柳先生の収集品の中から明清の時代の書作品に絞っての展示が実現しました。風岡五城名誉理事長、

金丸鬼山副理事長、伊東玲翠常務理事の3人が中心となって作品を整理、選別し、祝允明、文徵明、董其昌、何紹基、呉昌碩など32作家41作品を展示することとなりました。一般はもとより、多くの書道関係者も詰めかけ、その作品のすばらしさに目を見張っていました。



2023産経ジュニア書道コンクールを振り返って

本年も昨年を上回る出品を頂きましたことは、出品者はもとよりご家族様、全国各地において書道の発展に貢献されている諸先生のご教導の賜と衷心より謝意を申し上げます。

展覧会場は壮観の一語に尽き、12580点の素晴らしい作品で溢れました。作品の検索も徹底し、来場者の作品探しもスムーズに行われたと思います。

都美講堂で行なわれた贈賞式は3部門に分けられ、とりわけ「いきいき賞」は会場溢れんばかりのご家族で盛況でした。

最後にこの書展に尽力された産経関係者と、眞田実行委員長ジュニア展に対する熱い思いを具現化した実行委員、公正に粛々と選定された審査員に深甚なる感謝の意を表します。



実行委員会審査長
教育部担当副理事長
松崎龍翠

【審査長】松崎龍翠 【実行委員長】眞田朱燕

【審査員】大段栄泉、大峠仁、小笠原素心、岡田崇花、恩田峰道、影山瑤琴、勝田晃拓、河口美櫻、郷司翠楓、小谷美環、五戸光岳、今野美晁、佐々木天道、笹山紅樹、鈴木葉光、関根史山、建部恭子、谷蒼涯、玉田子翠、殿村蒼園、長岡輝美、中島彩紅、長谷川明扇、伏見香蘭、星野葉柳、蓑口草川、山地暁翠、渡邊祥華
(五十音順、敬称略)

◎特別賞 (中学生以下)

A部門 文部科学大臣賞

ジュニア大賞

東京都知事賞

神奈川県知事賞

埼玉県知事賞

千葉県知事賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞

フジテレビジョン賞

ニッポン放送賞

B部門

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経新聞社賞

産経国際書会理事長賞

フジテレビジョン賞

ニッポン放送賞

河口安寿(東京都・江戸川区立鹿骨中学校3年)

小比賀俐心(香川県・高松市立多肥小学校5年)

高野美心(東京都・青梅市立第二中学校2年)

木下愛子(神奈川県・川崎市立木月小学校4年)

松田葉月(埼玉県・春日部市立大沼中学校2年)

青柳花奈(千葉県・柏市立柏第六小学校5年)

荻野愛菜(埼玉県・所沢市立富岡小学校5年)

小野寺美桜(静岡県・浜松市立内野小学校5年)

櫻井歩那(兵庫県・園田学園中学校2年)

遠藤知胡(福島県・いわき市立中央台北中学校3年)

萩原悠衣(埼玉県・昭和女子大学附属昭和中学校3年)

松森悠真(広島県・広島市立大塚中学校3年)

花田なゆか(青森県・弘前市立第一中学校3年)

高橋芽吹(千葉県・市原市立姉崎東中学校3年)

杉山恭子(千葉県・四街道市立四和小学校6年)

安宅志(石川県・金沢大学附属小学校3年)

中村美月(福岡県・福岡市立鳥飼小学校4年)

湯浅美南(山口県・下関市立勝山小学校5年)

松尾夏希(兵庫県・小野市立小野東小学校6年)

石田優奈(埼玉県・春日部市立豊春中学校2年)

齋藤ゆうあ(福島県・川俣町立川俣中学校3年)

古賀未弥子(千葉県・印西市立印西中学校2年)

秋池琶月(埼玉県・入間市立藤沢南小学校6年)

西川薫(神奈川県・横浜市立日吉台小学校2年)



文部科学大臣賞を受賞した河口安寿さん

◎ジュニア賞 (中学生以下)

A部門

相場心遥、青木千紗、青木莉央、阿部心奏、飯村優莉彩、石倉さわ、一木瑛哉、猪野陽菜、井上碧衣、今井美月、上田晴華、梅ヶ枝優美香、梅田梨里、大木愛、岡桃子、梶原咲菜、金子葉結、金子葉央、河口瑠陽菜、國弘唯衣、倉谷凜音、齋藤明澄、佐伯香子、坂井来光、坂田莉子、佐藤空、新保心菜、高橋一花、田阪滯、田村夏乃愛、中島有彩、永田真央、中根綾香、橋口季輝、橋本彩芭、畠山日向、畑中美春、針ヶ谷陽菜、比嘉あかり、平野真愛、藤本優那、古屋日葵、堀越琴子、前田つくし、松井香乃、南美慧、森結菜、柳川凜乃、山中太智、吉富盟、渡辺菜月

B部門

石野玲依、市川結菜、今関ほの香、彌永涉、岩橋花音、潮田沙耶、海老澤勝翔、遠藤桜花、遠藤理久、大野聖未、長田香音、加治屋紫織、柏木梨愛、総谷友唯、木場彩乃、小松凜音、鈴木優衣、須藤碧一、竹田結月、西村琴糸、羽生真子、林涼介、吉田楓夏

◎いきいき賞（中学生以下）

- A部門** 新井声月、石原綾乃、井坪美遥、岩下絢音、岩見昌樹、上田涼介、岡田沙重、尾作実莉、小野怜弥、小畑志織、紙谷青、河島希歩、熊谷莉香、熊田さくら、小高里桜、小室雫、小谷野千代、近藤楓乃、齋藤芽生子、齋藤莉里愛、榎原茉史、佐々木葉月、佐竹結芽、陶山穂、高木琴衣、高梨功武、田上紗季、田島望葉、張里羽、中野晴太、中谷翼、橋本凜、長谷川堇、平井優花、平阪真愛、二村聡一郎、星和樹、星りさ子、前川結月、三木英姫、向井ひかり、村上夏葉、安原茉希、籾内新一、山田結生、若山想
- B部門** 伊藤心結、井上茉璃果、岡崎源太、門井しんじ、加藤海葉、加畑杏、河野奈々、河本みなみ、菊万璃子、北村彩芽、木村茅乃、熊谷依乃莉、黒澤諒真、斎藤柚奈、櫻田茉優、迫宗玄、佐藤紫乃、佐野巧実、澤口采由、島明希、新道光、須藤巧、平良南桜哉、玉木瑚夏、常深由莉、鶴田雫、富村日向子、中澤瑠々、並木日奈里、平井心結、平石マミ、平野純伶、廣瀬遥子、細越悠生、増田充輝、増田もか、松永琴美、松本佳奈、丸野怜久、道信結菜、毛利風花、屋亘優希、山崎あんず、山田虹海、山本志乃、米山千尋、渡辺千陽、渡部結月

◎特別賞（高校生）

- A部門** 産経新聞社賞 能瀬澄麗（長野県・長野市立長野高等学校2年）
 産経新聞社賞 前田かのこ（広島県・県立呉三津田高等学校2年）
 産経新聞社賞 結城海琴（熊本県・県立御船高等学校2年）
 産経新聞社賞 藤本梓（静岡県・県立浜松東高等学校3年）
 産経新聞社賞 山下賢一（埼玉県・大東文化大学第一高等学校3年）
 産経国際書会理事長賞 角田柚良（埼玉県・県立大宮光陵高等学校3年）
- B部門** 産経国際書会理事長賞 川名ひなた（千葉県・拓殖大学紅陵高等学校2年）

◎奨励賞（高校生）

- A部門** 越前はな乃、小野桃花、工藤未侑、小林真妃奈、佐伯翔子、澤上南、鈴木雄、須永李香、関莉果、中村心美、原美梨花
- B部門** 浅場悠真、荒川華織、大木愛子、小川胡桃、小倉那菜、角真心、亀田悠愛、川田茉侑、木内瑠那、小坂橋舞、笹尾美彩貴、佐野歌、鈴木凜音、多賀心咲、辰巳杏里、田中碧、田中美咲、長宗凜、林菜月、平子誉人、三上佳織、宮先里奈、望月葉緒菜、横川紗也、吉満優麻

◎国際部

- 国際友好賞 岩本紗耶（タイ・バンコク日本人学校中学2年）
 国際努力賞 小園幸重（タイ）、清野すみれ（アメリカ）
 国際いきいき賞 エポフゾーヤ（シンガポール）
 国際奨励賞 陳少庭（台湾）



6月26日に行われた審査会



会場で行われた「うちに筆で字を書こう」



親子連れで賑わう会場

第40回記念 産経国際書展“新春展”募集要項

開催要項(概要)

- 【名称】 第40回記念産経国際書展“新春展”
【主催】 産経国際書会 産経新聞社
【会期】 令和6年1月24日(水)～2月5日(月) 1月30日(火)は休館日
【会場】 国立新美術館
〒106-8558 東京都港区六本木7-22-2
【入場料】 500円 (障害者手帳をお持ちの方と付添いの方2名、65歳以上、および大学生以下は無料)

出品要項(概要)○搬入締切:令和5年11月17日(金)

《新春展Ⅰ》

- 【寸法】 タテ8尺ヨコ6尺(242cm×182cm)以内。
全紙以上。但し参与以上は全紙以下も可。
篆刻、刻字、卷子・折帖作品は上記サイズ外。
- 【特典】 作品を掲載した産経国際書会代表展の図録を1冊進呈(希望者には5冊まで)
- 【搬入】 出品票に必要事項をご記入の上、出品料を添えて指定表具店へ。
- 【出品料】 ①5万円＝産経国際書会の役員(最高顧問、名誉顧問、常任顧問、顧問、客員顧問、参与、名誉理事長、理事長、理事長代行、副理事長、常務理事、専管理事、理事、監事、評議員)
②3万円＝審査会員、無鑑査会員



第39回新春展Ⅱ展示風景

《新春展Ⅱ》公募部門

- 【出品資格】 満18歳以上(産経国際書会会友含む)
- 【寸法】 半切タテヨコ(135cm×35cm)、全紙2分の1(70cm×68cm)
※搬入は未表装で出品票に必要事項をご記入の上、藤和額装(下記、作品送付先)まで。団体の場合は一括出品をお願い致します。出品作品はすべて展示します。
但し、規定寸法と異なる場合には展示できない場合がありますのでご注意ください。
- 【出品料】 2万円
- 【審査】 (予定)12月8日(金)
- 【賞】 会友の部:会友奨励賞(賞状、副賞)、
公募の部:産経新聞社賞(賞状、副賞)、
奨励賞(賞状、副賞)
- 【特典】 ①作品(半切タテのみ)を軸装にして返却します。(表装料は出品料に含まれています)
②産経新聞社賞受賞者が令和6年8月に行われる第41回産経国際書展に公募で出品する場合は出品料を無料とします。
- 【贈賞式】 (予定)令和6年2月5日(月)
午後4時～ 明治記念館
- 【作品送付先】 〒234-0054 神奈川県横浜市港南区
港南台7-51-12 藤和額装(株)
TEL045-833-5273

資料請求先 〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2 産経国際書会 新春展Ⅱ係
問い合わせは TEL03-3275-8902 FAX03-3275-8974 E-mail: shokai@sankei.co.jp

書展 トピックス

第45回墨農書道会展“墨の祭り”

岩田正直

●会期 8月25日(金)～28日(月) ●会場 埼玉会館

今回は会場の都合で第3室が使えず利用可能壁面が半減した為、作品サイズを半切にして対応いたしました。普段書き慣れているはずなのに、存在感を出すことの如何に難しい事か。つくづく小品の難しさを思い知りました。次回展は会場壁面も通常に戻る予定でホッとしております。



アラカルト

風岡名誉理事長 名古屋で特別揮毫会

日本書道のユネスコ世界遺産登録を目指す日本書道文化協会が主催する特別揮毫会が名古屋市の電気文化会館で行われ、風岡五城名誉理事長ら3人の書家が200人を超える参加者の前で健筆をふるった。

風岡先生は、漢字と漢字かな交じりを担当。山本晴城副理事長と木村大澤常務理事をアシスタントに、最初は少々緊張気味だったが、漢字「龍騰」と漢字かな交じりの顧愷之の「春水満四澤…」の2点を勢いよく揮毫し、作品解説でも笑いを誘っていた。



「ばらかもん」が話題に

7月期のフジテレビ系で放映された、俳優の杉野遥亮さん演じる書道家、半田清舟を主人公にしたドラマ「ばらかもん」で実際にドラマ内で使用された「楽」が第40回記念産経国際書展で特別展示され、話題を集めた。ドラマには産経国際書会も協力し、鈴木暁昇産経国際書会専管理事が書道監修を務めた。



初心者のためのかな書道本出版

日本書蒼院理事長の谷蒼涯専管理事が美しい「かな書」が習得できる、初心者のための教科書「わかる！かな書道」(日貿出版社、¥2,500)を刊行。理系大学で学んだ経験を生かし、速度、筆圧、墨の紙への浸透度などを分析し独自の作品制作を实践。確かな理論に基づく明快な解説で、美しい書作品づくりを教えてください。ぜひ、ご覧ください。



産経新聞社新事業本部長に三笠博志が就任

令和5年7月1日付けで、産経新聞社の人事異動があり、新事業本部長に三笠博志(1967年、大阪府堺市出身)編集局長が就任いたしました。また、前事業本部長の伊藤富博は事業本部エグゼクティブプロデューサーに就任、引き続き会長代行を務めます。会長代行2人体制になりますので、よろしくお願いいたします。



お詫び

このたび「産経国際書会40年—そのはじまりと歩み—」図録におきまして、48p系譜図にある秋山弦草は細字ではなく太字の間違いでした。秋山弦草氏のご健在です。あらためてお詫び申し上げます。

前回の会報第105号におきまして、18pの書展トピックス「利根川秀佳個展」の正しい紹介文は「初めての個展を開催致しました。今回のコンセプトは、誰にでも読める字を書く事と、言葉を様々な書体で表現する事でした。書家として、お客様がどのような書に興味を持たれるのか、そして観ていただく為にはどのような作品を書いていけば良いのか、深く考えさせられた初個展となりました。」です。たいへん申し訳ございませんでした。

各会書展お知らせ(産経新聞社後援)〈令和5年10月~12月〉

展覧会名	会期	会場	社中名	代表
第36回研友社展	10月9日(月)~10月14日(土)	小津ギャラリー	書法研究 研友社	金丸鬼山
第29回蘭契展	10月10日(火)~10月15日(日)	銀座鳩居堂ギャラリー	龍映書道会	林 龍成
檀の会書展	10月11日(水)~10月15日(日)	おだわら市民文化センター-UMECO	檀の会	北川佳邑
第38回日本総合書作院展	10月12日(木)~10月15日(日)	堺市立文化館	日本総合書作院	篠原秀朋
第33回書心会書展	10月13日(金)~10月15日(日)	所沢市民文化センター(ミュージズ)	書心会	加藤深流
2023「巳歳の会」書展	10月13日(金)~10月15日(日)	セントラルミュージアム銀座	「巳歳の会」書展 実行委員会	
第21回書道五月女紫映社中展	10月15日(日)~10月21日(土)	東京交通会館ギャラリー	書道 五月女紫映	五月女紫映
第8回海游舎書展	10月17日(火)~10月22日(日)	埼玉県立近代美術館	海游舎	山下海堂
第51回土筆会書道展	10月17日(火)~10月22日(日)	ふくやま美術館シティーホール	書道研究 土筆会	上村陽香
書・墨・アート Vol.14 渡邊麗展 - 書・光芒の彼方 -	10月17日(火)~12月3日(日)	座・高円寺(杉並区芸術会館)	誠心社	渡邊 麗
第48回煌心同人書展	10月19日(木)~10月22日(日)	銀座かねまつホール	煌心書道会	松崎龍翠
第52回千墨書道展	10月25日(水)~10月30日(月)	品川区民ギャラリー	千墨書道会	近藤豊泉
つなぐ・書道家四代展 併催 鹿沼書道会作品展	10月26日(木)~10月29日(日)	鹿沼市文化活動交流館ギャラリー	鹿沼書道会	殿村蒼園
第55回一煌会書展	10月27日(金)~10月29日(日)	マロニエ通り銀座館ギャラリー	一煌会	小川艸岑
第36回日書美展 併催 日書美学生公募展	11月4日(土)~11月5日(日)	南海浪切ホール	日本書藝美術院	中塚龍華
第40回記念硯田社書展	11月7日(火)~11月12日(日)	高知市文化プラザかるぼーと	硯田社	橘 黄華
第33回遊心書道会展	11月10日(金)~11月12日(日)	広島県民文化センター	遊心書道会	大庭清峰
第28回秋桜会書展	11月16日(木)~11月19日(日)	銀座大黒屋ギャラリー	秋桜会	鎌田悠紀子
第9回方琥書院書画展	11月16日(木)~11月21日(火)	茨木市立ギャラリー	日本書道学士院	久田方琥
第69回あしで會選抜書作展	11月17日(金)~11月19日(日)	尼崎市総合文化センター美術ホール	あしで會	今口鷲外
第48回全国公募 日輝展	11月18日(土)~11月24日(金)	東京都美術館	日輝会美術協会	石井理春
第40回記念CMO展・近畿 席書大会	12月2日(土)~12月3日(日)	藤井寺市民総合会館	近畿席書会	正川子葉
第30回記念柏葉書展	12月5日(火)~12月8日(金)	パトット柏市民ギャラリー	柏葉会	高頭子翠
心芸墨美作家協会2023 選抜展	12月12日(火)~12月17日(日)	セントラルミュージアム銀座	心芸墨美作家協会	岩浅写心
第44回國藝展	12月22日(金)~12月27日(水)	鎌倉芸術館ギャラリー		齋藤善坡
墨色のビジュアル二人展 【鎌倉展】	12月22日(金)~12月27日(水)	鎌倉芸術館ギャラリー		小川艸岑 小宮求茜

追悼

次の先生が黄泉につかれました。
本会での活躍とご指導ご鞭撻を賜りましたことに厚く御礼申し上げますとともに、
心よりご冥福をお祈り申し上げます。合掌。(敬称略)

評議員 岡林御舟(令和5年7月) 会友 平川純雲(令和5年5月)
会友 牧野翠苑(令和5年7月)

編集後記

秋風の待ちどおしいこの頃ですが、何と暑い暑い夏だったことでしょう。

気候変動による災害や大型台風等、世界各地で天変地異の現象がみられます。

そのさ中、40回記念産経展が大々的に開催されました。「産経国際書会40年ーそのはじまりと歩みー」「田中鳳柳コレクション名品展」また韓国書壇代表作家の出品等、貴重な特別企画が盛り込まれました。

開催初日には開幕前から長い行列が出来、国際色豊かな民族衣装の方々等、華やかな盛り上がりを見せました。

今年は記念の賞も増設され、高円宮妃殿下御臨席の下厳粛に贈賞式が行われ、栄えある高円宮賞に村田白葉先生、内閣総理大臣賞に岩浅写心先生が受賞されました。誠にありがとうございます。

そして記念展は関西、東北、瀬戸内、中部、四国展へと巡回します。U23、ジュニアの若い力を期待し、これからの産経国際書会の益々のご発展を祈念する次第です。

(小川艸岑)

(会報編集委員／高頭子翠、小川艸岑、影山瑤琴、早坂喜伊、渡邊麻衣子)

表紙：題字揮毫は高橋照弘理事長

編集・発行 令和5年9月号
〒100-8079 東京都千代田区大手町1-7-2
産経新聞社事業本部内
産経国際書会事務局
TEL:03(3275)8902 FAX:03(3275)8974
email : shokai@sankei.co.jp
<http://sankei-shokai.jp/>
<https://www.facebook.com/sankeishokai>



産経国際書会
HPはこちらから

お願い

会員の皆様に住所・電話番号等の変更があった場合には事務局までご連絡くださいますよう、また、各会書展のお知らせは早めにご願ひ致します。